

裁判所職員総合研修所 (事後評価)



平成19年2月23日 国土交通省関東地方整備局

旧研修所の状況

◆老朽化

- ・家庭裁判所調査官研修所
→S46年建築(建築後32年経過)
- ・書記官研修所
→S44年建築(建築後34年経過)

◆狭隘化

- 必要延面積の4割程度
(旧研修所の延面積計: 17, 309m²)

◆新しいニーズへの対応

- 新しい司法制度に向けて、職権の異なる裁判官・裁判官書記官・家庭裁判官調査官のより緊密な連携が必要不可欠

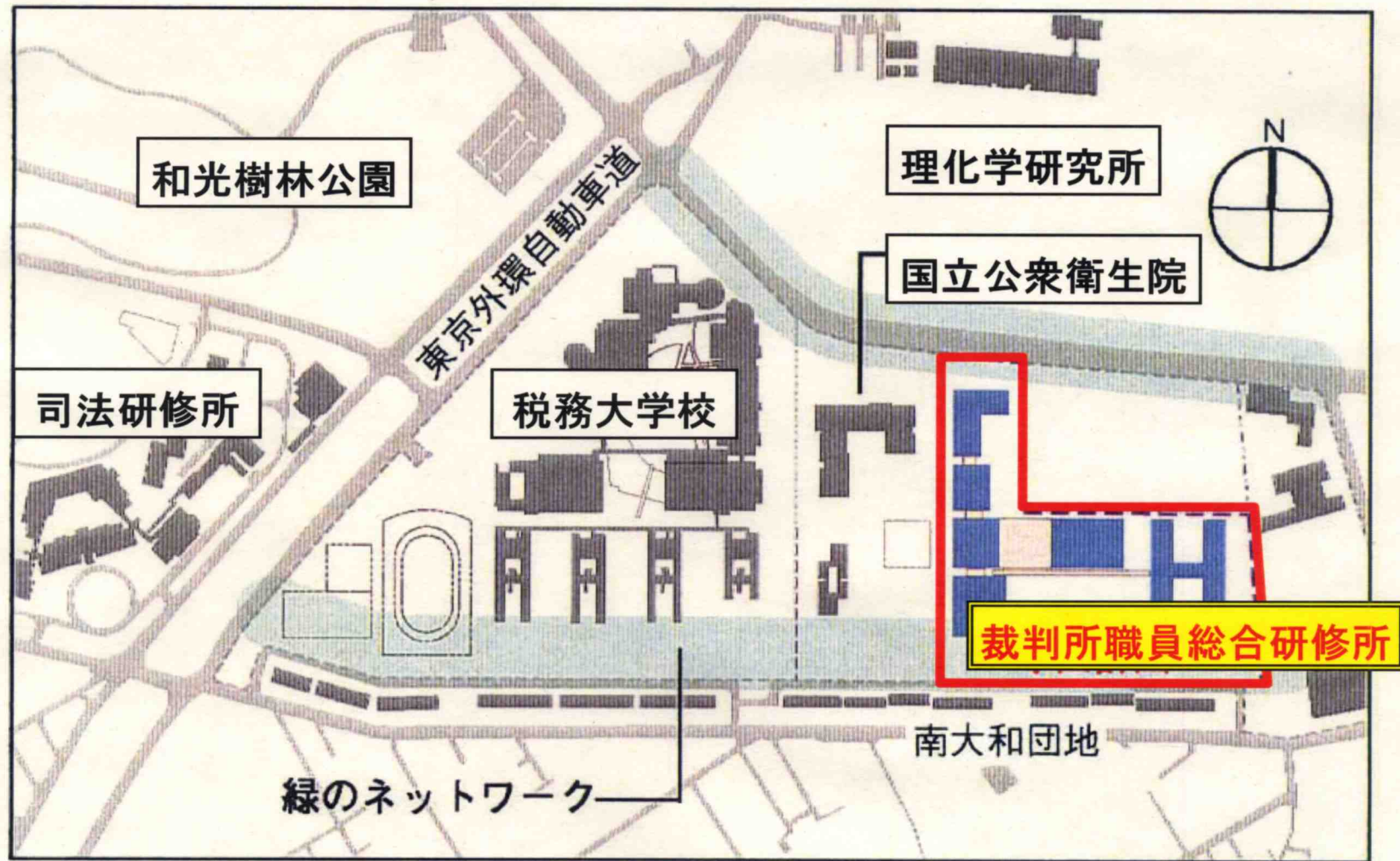


家庭裁判所調査官研修所



裁判所書記官研修所

周辺土地利用図



裁判所職員総合研修所 全体図



施設概要

- ◆敷地面積 : 40, 925m²
- ◆総延面積 : 39, 984m²
- ◆構造 : SRC(一部RC)－5他
- ◆設計 : 平成12年2月～平成14年3月
- ◆工期 : 平成14年2月～平成16年3月
- ◆総事業費 : 約154億円
- ◆延べ面積1m²あたりの工事費 : 約33万円／m²

※ 外構整備等を除いた管理棟の1m²あたりの工事費

施設の利便性

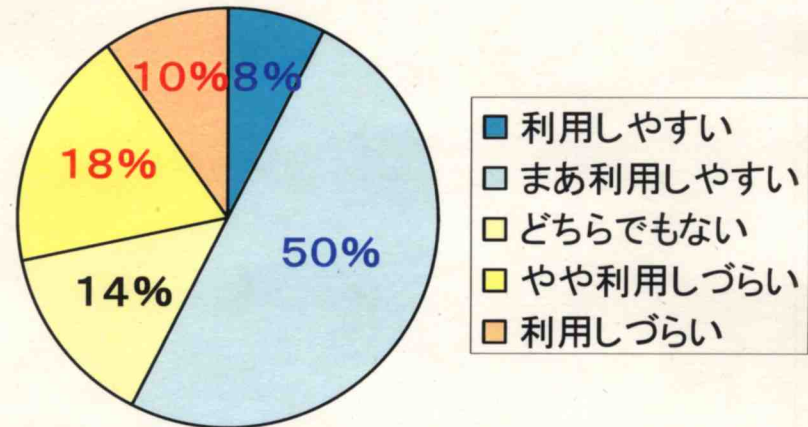
【アンケート結果】(職員(92人))

Q. この施設は利用しやすいですか

○ 利用しやすい(58%)

- ・施設内が快適(広さ、明るさ、材質等)
- ・室内の照明の明るさや自然光の取り入れが良い

× 利用しづらい(28%)



※ 調査日:平成18年10月

執務環境の向上

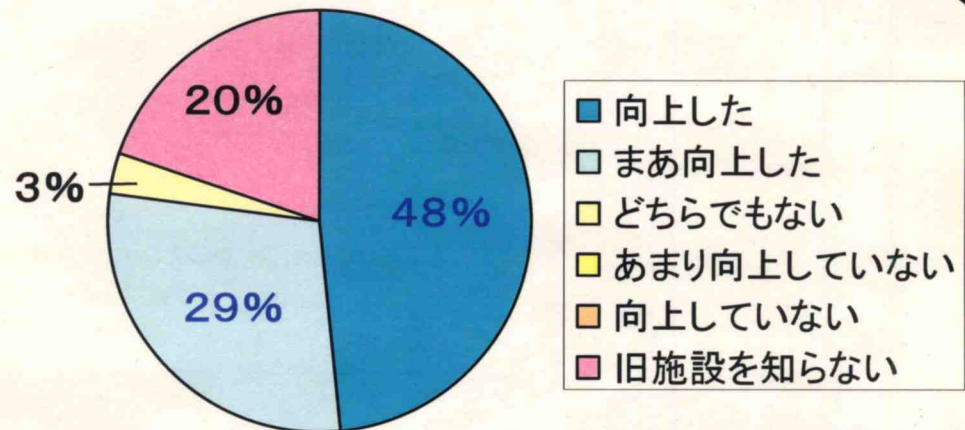
【アンケート結果】(職員(88人))

Q. 旧施設と比較して執務環境は向上しましたか

○ 向上した(77%)

- ・執務スペースが広がった
- ・事務室が明るくなった

× 向上していない(0%)



※ 調査日:平成18年10月

施設の利便性

【アンケート結果】(研修生(107人))

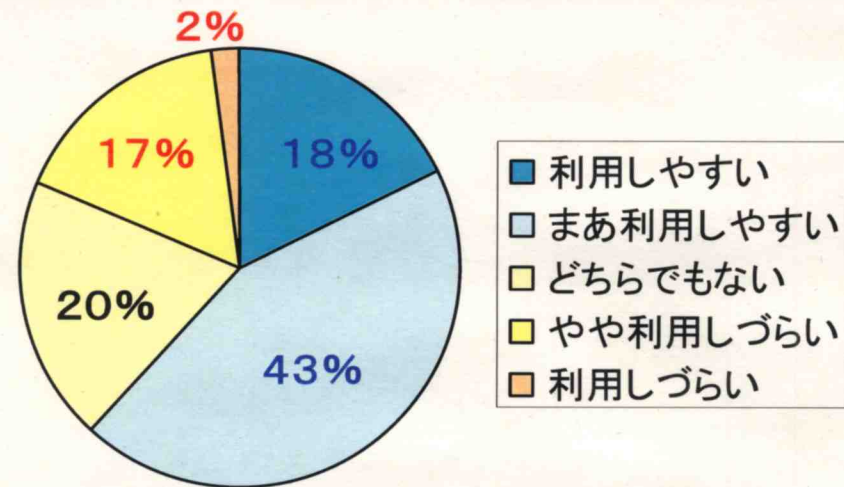
Q. この施設は利用しやすいですか

○ 利用しやすい(61%)

- ・ 研修施設が整っていて研修に集中できる
- ・ 交流を育む場所が整っている
- ・ 施設の配置が良い

× 利用しづらい(19%)

- ・ 交通の便が悪い



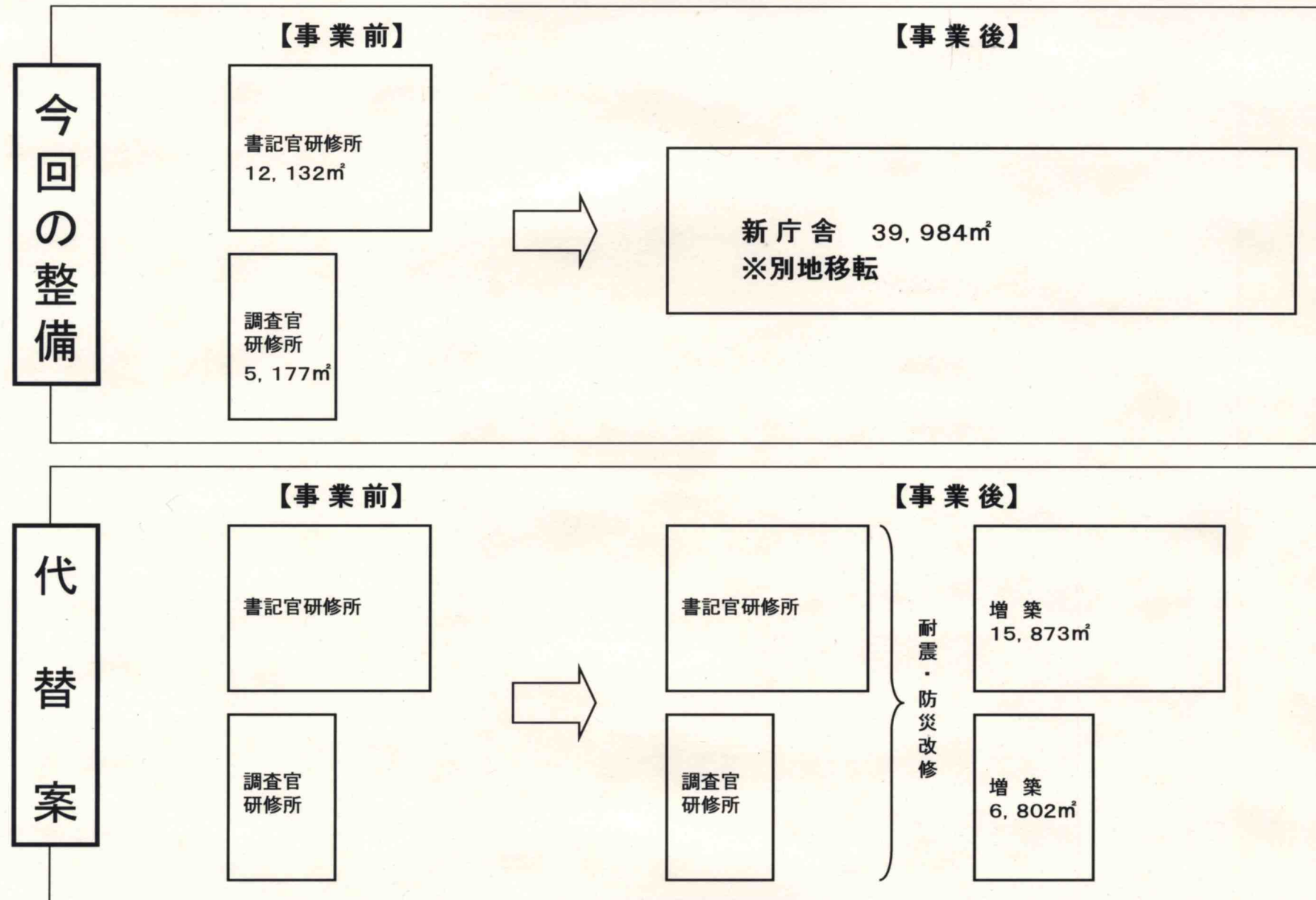
※ 調査日:平成18年10月

付加価値の付与 (近隣への配慮)

- ・ グラウンドやテニスコートの地域開放を行い、地域に貢献
- ・ 近隣の利便性のため、南北貫通通路の確保



代替案の考え方



事業の効果

■費用対効果

(単位: 百万円)

項目	種別	効果
効果		40,182
土地有効利用	土地処分益	16,214
利用者の利便	立地の改善	▲ 50
建物性能の向上		24,003
(代替案を実施する場合 にかかる費用で計上)	狭隘解消	22,569
	既存庁舎の維持修繕費	7,533
	増築庁舎の初期費用、 維持修繕費	15,036
	事故・災害の縮小	1,434
環境への配慮	地球環境保全への寄与	15
B without ※事業を実施しなかった場合の便益		▲ 3,616
総効果(B)		36,566

(単位: 百万円)

項目	種別	費用
費用		32,566
初期費用	建設費	17,089
	企画・設計関係費	413
	土地取得費	7,331
	維持修繕費	7,733
C without ※事業を実施しなかった場合にかかる費用		▲ 3,616
総費用(C)		28,950

$$\text{費用対効果(B/C)} = 1.26$$

■その他の効果

- ・ 狭隘解消による執務環境の向上
- ・ 研修所の集約によるより緊密な連携の確保

今後の対応方針(案)

当初計画の目的としては概ね達成できている。今後、定期的に庁舎の実態調査を行い、利用者の利便性を確保しつつ経年などによる業務能率の低下等を招くことのないよう、保全指導や適切な時期に改修等を実施していく。